



平成 16 年 4 月 27 日

各 位

株式会社ハニック・ドライブ・システムズ  
代表取締役社長 熊谷 信生  
(登録銘柄・コード 6324)  
問い合わせ先  
管理執行役員 碓井 雅雄  
TEL 03-5471-7810

### 平成 16 年 3 月期 個別業績予想及び配当予想の修正について

平成 15 年 11 月 21 日付「個別中間財務諸表の概要」で発表しました、平成 16 年 3 月期（平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日）個別業績予想及び配当予想を下記のとおり修正しますのでお知らせいたします。尚、連結業績予想につきましては、追って開示いたします。

#### 記

平成 16 年 3 月期（平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日）個別業績予想及び配当予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当り 期末配当金	1株当り 年間配当金
前回予想(A)	10,500	990	520	2,800円	5,100円
今回修正(B)	11,752	1,700	1,000	7,800円	10,100円
増減額(B-A)	1,252	710	480	5,000円	5,000円
増減率	11.9%	71.7%	92.3%	178.6%	98.0%

(注) 平成 15 年 12 月 16 日に中間配当(1株につき 2,300 円)を実施しております。

#### 【修正理由】

- ・半導体市況の好転と液晶テレビをはじめとするフラットパネルディスプレイの需要増加による設備投資意欲の回復に伴い、国内の半導体および液晶製造装置関連向けの売上高が増加しました。また、自動車関連の設備投資が旺盛であったことなどから、産業用ロボット向けの売上高も増加しました。
- ・輸出売上高につきましては、上半期は低水準にあった北米市場において、半導体製造装置関連用途を中心とした需要が改善し、売上高の伸長に寄与しました。
- ・利益面につきましては、売上高の増加に伴い増益となりました。
- ・配当金につきましては、当社の利益配分に関する基本方針(年間配当性向 30%を目処)に基づき増配を予定しております。

<ご参考>

1. 前期の実績(個別)(平成14年4月1日~平成15年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当り 期末配当金	1株当り 年間配当金
通期(14/4~15/3)	8,615	394	108	2,500円	3,500円

(注) 1.平成15年5月20日付けで1株につき3株の割合で株式分割いたしました。上記1株当たり配当金は分割前の株数に対するものです。

2.百万円未満は切り捨てて表示しております。

2. 平成16年3月期第4四半期 受注・売上高実績(個別)

(1) 受注高実績

(単位:百万円)

区 分 製品区分	第4四半期			第1~第4四半期累計	
	金額	前年同期 比(%)	前四半期 比(%)	金額	前年同期 比(%)
減速装置	2,738 (319)	145.5 (123.0)	104.4 (103.1)	9,253 (991)	132.0 (120.6)
メカトロニクス製品	888 (131)	156.2 (153.3)	108.0 (86.9)	2,817 (427)	142.7 (145.8)
合計	3,626 (451)	148.0 (130.6)	105.3 (97.8)	12,070 (1,419)	134.4 (127.2)

(注) 1.括弧内の数字は輸出受注高であります。

2.百万円未満は切り捨てて表示しております。

(2) 売上高実績

(単位:百万円)

区 分 製品区分	第4四半期			第1~第4四半期累計	
	金額	前年同期 比(%)	前四半期 比(%)	金額	前年同期 比(%)
減速装置	2,835 (311)	156.7 (158.9)	124.0 (124.8)	9,034 (1,000)	134.2 (122.6)
メカトロニクス製品	877 (153)	158.4 (268.2)	131.8 (162.2)	2,717 (394)	144.2 (119.4)
合計	3,713 (465)	157.1 (183.6)	125.8 (135.1)	11,752 (1,395)	136.4 (121.7)

(注) 1.括弧内の数字は輸出売上高であります。

2.百万円未満は切り捨てて表示しております。

(3) 第4四半期の概況(個別)

国内受注につきましては、半導体・液晶関連装置向けを中心として前四半期に引き続き好調を維持しました。

輸出受注につきましては、米国向け、欧州向けとも市場自体には大きな変化は見られませんでした。前四半期に比べ減少しました。

売上高につきましては、前四半期、当四半期の受注が好調であったことにより、前年同期比、前四半期比とも大幅に増加しました。

以上